

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0870200896		
法人名	株式会社 クリエイト		
事業所名	グループホーム久慈浜		
所在地	茨城県日立市久慈町3-4-14 (電話) 0294-52-6673		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】 (平成20年10月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	10人, 非常勤 5人, 常勤換算 12.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての 1 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年10月6日現在)

	17 名	男性 7 名	女性 10 名
要介護1	10	要介護2	1
要介護3	2	要介護4	3
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 79 歳	最低 55 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	久慈茅根病院・日立港病院・月村歯科・徳永歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「利用者が家族や地域とのつながりを大切に、明るい家庭的な生活の場を提供したい」との理念を掲げている。
 管理者や職員は常に利用者のより良い生活を考え、職員自ら夕方の入浴支援ができないか検討している。
 自家菜園の作業で利用者から多くのことを学び、職員と利用者が共に支え合う関係や利用者を暖かく見守る支援体制を構築している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 地域との付き合いや食事を楽しむ支援、栄養摂取や水分確保の支援は改善している。 鍵をかけないケアの実践を運営推進会議や職員間で話し合い、玄関は日常の安全面から施錠しているが、いつでも利用者の外出を支援する体制になっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 管理者や職員は自己評価や外部評価の意義を十分理解している。 全職員で自己評価を行いサービスの質の向上に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議は利用者や家族、地域の代表、他のグループホームの職員、市職員、ホーム職員が参加し2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の状況やサービス内容等を報告するとともに出了意見等を職員で話し合いサービスの質の向上に活かしている。 運営推進会議の議事録を作成し利用者の家族に送付するとともに、玄関に置き誰でも閲覧できるようにしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 利用者の様子を手紙や写真で知らせるほか、金銭管理の写しを同封して家族に月1回報告するとともに、施設の状況や職員の異動等を記したのも送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 2つの自治会と関わり、施設からのお知らせなどを回覧で通知している。 小学生が授業の一環として施設に訪れ、楽しく交流するとともに後日児童から手紙等が届いている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者が家族や地域とのつながりを大切にし明るい家庭的な生活の場を提供したい」を理念の一つとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は毎朝申し送りの際に理念を復唱し実践に取り組んでいる。 全職員で月ごとにテーマを決め利用者を支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2つの自治会と関わり、施設からのお知らせなどを回覧で通知している。 小学生が授業の一環として施設に訪れ、楽しく交流するとともに後日児童から手紙等が届いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は自己評価や外部評価の意義を十分理解している。 全職員で自己評価を行いサービスの質の向上に活かしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、地域の代表、他のグループホームの職員、市職員、ホーム職員が参加し2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の状況やサービス内容等を報告するとともに出た意見等を職員で話し合い改善に活かしている。 運営推進会議の議事録を作成し利用者の家族に送付するとともに、玄関に置き誰でも閲覧できるようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の事業者懇談会やグループホーム連絡会議に参加し意見交換をしている。 市の担当課と情報交換や相談などを行い協力を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子を手紙や写真、金銭管理の写しを同封して家族に月1回報告するとともに、施設の状況や職員の異動等を記したものと運営推進会議の議事録も送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているほか、苦情申立受付窓口を重要事項説明書に明記している。 管理者や職員は面会時や電話で家族と話し合うよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の意向をよく聞き、異動や離職を最小限に抑える努力をしている。 離職の際、職員は利用者と手を握りあって挨拶を交わすなど、ダメージが少なくなるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修案内を掲示し職員が希望する研修に参加できるよう支援している。 研修報告書を作成するとともに会議等で報告し、職員で共有している。 管理者から提供される参考書等で職員は勉強している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業所連絡会で同業者と意見交換をしている。 応急手当救命講習や花火大会などのイベントを同業者と合同で行い職員同士の交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者はサービスを開始するにあたり利用者や家族とよく話し合っている。 管理者は利用者や家族がホームを見学し利用予定の居室を確認したり、職員や他の利用者との話合いの場を提供し自然に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から生活の知恵など多くのことを学んでいる。 笑顔の大切さを教えてもらい、利用者から利用開始から1年経った日に「ありがとう」と言われ感動し、仕事のやりがいを感じている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴を把握し、利用者や家族の希望や意向にそって支援している。 意向の把握が困難な利用者には職員が日々寄り添い気持ちを汲みとるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の希望を聴くとともに、職員が利用者と1対1で話し合い利用者の希望を把握し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて介護計画を見直している。 また、利用者の排泄のサインやパターンを確認しながら、おむつから尿取りパットや下着に変更できないかを検討し随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合で利用者が病院を受診できなくなった場合は家族に代わって職員が同行し、診察結果を家族に報告している。 葬祭等で利用者が出席を望んだ場合は希望にそって支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望でかかりつけ医を決め定期的に受診している。 受診後は病状や投薬について家族や利用者とは話し合い適切な支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応にかかわる指針」や「看取りに関する指針」を作成し、家族に説明するとともに同意を得ている。 職員は方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳を大切にし、排泄介助等の支援をしている。 利用者の記録等の書類は、事務所内の決められた場所に適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活ペースを大切にしている。 その日何をしたいのか利用者の行動や言葉かけにより意向を把握し希望にそって支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で利用者が栽培した野菜を食材として使い利用者の食欲を誘っている。 食器にこだわりをもつ利用者は箸置きなどで他の利用者と話題を共有している。 職員は利用者の話を聞きながら一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそって入浴時間や順番、回数 の支援をしている。 同性による介助を望む利用者にも意向にそって支援している。 職員間で夕方の入浴支援ができるか検討している。	○	利用者から夕方入浴の希望があった場合に実現できることを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴を把握している。 裁縫の好きな利用者は物を大切に使うことからブラウスなどをリフォームして再利用している。 自家菜園に取り組む利用者は自前の鎌で作業をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望にそった外出支援をしている。 散歩で神社の参拝、買い物や庭でお茶を飲むなど気候に合わせて戸外での生活を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。 運営推進会議で家族から生活の安全面から玄関は鍵をかけて欲しいとの要望で施錠している。 戸外に出たい利用者には職員が同行するなどの支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年毎に総合防災訓練を実施し地域の人々が参加している。 毎月部分訓練をしている。 夜間訓練はその時参加できる利用者で実施している。 非常食を備蓄している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握し記録している。 脱水状態には注意をはらい十分な水分確保ができるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関内に腰をかけることができるスペースがあり、季節に合った座布団を置いている。 廊下の小さな額の中に犬や猫、植物の写真に詩が書いてあるものを飾り、利用者の興味を誘うとともに癒しの空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の好みのカーテンを取り付けている。 ベットなど居室内の物はすべて持ち込みができ、利用者に合った物を使用している。 フローリングの床に畳を敷き、布団で寝たりこたつを置き、居心地よい部屋づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。